



# 「活きていることわざ」

船橋市議会議員

神田 廣栄 (かんだひろえい) 市議会報告

【事務所】船橋市前原西8-24-8 ☎490-3333 FAX 465-7117  
Eメール hiroei@muc.biglobe.ne.jp  
ホームページ http://www.hiroei.jp

## 頭が動けば尾も動く・因果応報 (いんがうほう)

【頭が動けば尾も動く】◇指導者が行動を起こせば、下の者も動くこと。

・頭も尾も同じ体についていて単独に動くことはないから。

【因果応報】◇人の考えや行いの善悪に応じて、相応の報いがある。

・「因果」は、原因と結果。仏教で、過去及び前世の因業(いんごう=結果を起こさせる原因となる行爲)に応じて果報(かほう=00い。00運)がある、といったため。

船橋市政は、4期16年の藤代孝七市長から松戸徹新市長へバトンタッチされました。その松戸市長は、7月19日午前10時から市庁舎11階に各部課長など市幹部職員を集めて就任挨拶をされ、その一部は広報紙などで紹介されましたが、今号ではその詳細と、議会関係の話を掲載します。

◇市長選挙の際に掲げた6つの柱は、これから具体的なスケジュールを立てて後期基本計画とともにしっかりと推進していく、と述べられました。また、管理職には、次の3点の課題を提案し、実行してもらうよう話をされました。



### ① 自分たちの仕事の原点を改めて考えて欲しい。

「市役所は市民のためにある」とよく言われるが、それでは、自分たちが今している仕事が、本当に市民のためになっているかどうか、改めて見直してもらいたい。変えていくには勇気が必要だ。勇気を出すために心の壁を打ち破って欲しい。そしてスピード感を持って仕事を遂行して欲しい。

### ② 市民の力というものを改めて知って欲しい。

船橋市は活力があり、市民活動がほんとうに活発である。それでは市民の力・活動とは何なのか、具体的には言わないが、皆さんは、自らこれを知る努力をして欲しい。そして、これからのまちづくりには欠かせないその流れをつかんで、市民の皆様から共感を得られる仕事をしてもらいたい。

### ③ 船橋市役所を「接遇日本一」にする。

選挙期間中、多くの市民の皆様から、市職員の仕事振りの話をされた。誤解に基づくものも多々あった。給与の面も言われた。給与に見合った仕事をちゃんとしているのか、という声も多々あったのは事実である。

愛想が一番



大方の職員の皆さんは、非常に職員数を絞ってきた中で、本当に頑張っていると思う。ただ、一部の職員の心無い対応により、一生懸命頑張っている人達の全

てが無にされている現実がある。せっかく良い仕事をして、言葉遣い、身だしなみ、その時の態度、それにより市民の受ける印象は全く異なってしまう現実を感じて欲しい。

廊下を歩いていて感じたことだが、部課長で、職員に対して、すれ違ったときにきちんと挨拶ができていない人が本当に少ない。これでは駄目だ。まずスタートからしっかりとやってもらいたい。



☆そして結びに、

船橋市は全国のリーダーとなる位置にある。その市役所にいるんだ、という自覚と誇りを持って、これから仕事をして戴きたい。皆さんの力に期待しているし、皆さんの力がなければ、まちづくりは進まない。都市としての力、市民の力、そして職員の力、この3つを重ね合わせなければ、船橋市の発展はないと思う。是非皆さんの力を貸してもらい、一緒に、これからの船橋、新しい船橋を私と一緒につくって戴きたい。

以上が松戸市長の市職員に対する今後取り組む考え方です。全く同感です。私も以前より「挨拶のできない人に良い仕事ができるわけがない」と申し上げてきました。市のトップとして言いにくいことも言わなければなりません。『頭が動けば尾も動く』ものです。

さて、議会関係の話です。議会事務局は議会運営と議員の仕事のサポート役が主な仕事です。当然50名の議員に対して公平でなければなりません。

しかし、現在のある事務局員は、力のある人（本人だけがそう思っているだけですが）に従順で、その人のご機嫌取りに没頭しているように感じられます。

私たち議員が本会議で一般質問をするには、議会運営委員会で決定した期日・時間までに文書で質問内容を通告しなければなりません。議員や人間として期日や時間を守ることは当然ではありますが、人間生身ですから、いつ何時どんなことに遭遇するか知れません。

以前の事務局員は、提出のない議員に念のため確認してくれていましたが、ある時、ある人間が締め切り時間前から事務局にどんと座って睨（にら）みをきかせ、「はい締め切りだぞ」みたいなことを言っていたのでは、と想像したくなります。それ以来事務局員がびびってしまい、全く人間味が無くなってしまいました。

今回は8月30日正午が締め切りでした。私は午前10時過ぎに文書をファックスしたので問題はありません。しかし、正午のニュースを聞いて、危機管理の質問をしようと思っていたのを思い出して、12時13分に事務局に電話し「一つ忘れていたので追加してください」と言ったところ「締め切り過ぎましたので無理です。先生の前にもある議員から文章の訂正を言われましたが、時間が過ぎていたので断っています」とのこと。時間が過ぎてからの話ですから仕方ないといえば仕方ないのですが、あまりにも心がありません。「ひとりOKすればみんなしなくてはならない」とか「時間に際限がなくなってしまう」などと言われそうです。

なんでも杓子定規（しやくしじょうぎ）では、ぎすぎすした人間関係になってしまい、信頼関係も保たれません。『因果応報』になると知るべきです。

車のハンドルだって若干の「遊び」があるから、より安全な運転ができるのです。日頃お世話になっている事務局に嫌みは言いたくありませんが、たった一人の議員に慮（おんぶ）かっているのは、松戸市長の「金の提言」が泣いてしまいますよ。

